

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

データから見る中国語初級学習者の誤用の考察： “是……的”構文を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2021-09-24 キーワード (Ja): 実現済み, 已然, 共通認識, 焦点, 取り立てる キーワード (En): 作成者: 趙, 嵐, 籠谷, 香理 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学, 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00007992

データから見る中国語初級学習者の誤用の考察

— “是……的” 構文を中心に —

趙 嵐

籠 谷 香 理

要 旨

本稿では、中国語初級学習者がよく間違える“是……的”構文を主とした3回分のテストを分析・考察した。結果、学習者の間違いは“是……的”構文は話し手・聞き手の共通認識があつてからの発話だと理解不足、「V了」構文との混同、動作自体の取り立て、“是”の位置の間違い、などから生じていることが判明した。

従って、本稿では、様々な“是……的”構文の誤用が生じる原因を(1)“V了”の混同による誤用、(2)動作部分の取り立てによる誤用、(3)特に“是”の語順間違いによる誤用、(4)目的語の位置による誤用の4方面から分析を試みた。

さらに、今回のデータを活かし、誤用原因を踏まえて、頻出する学習者の“是……的”構文の間違いを防ぐため、よりよい授業法、有効的な練習方式、合理的な小テストなどを見出していきたい。

キーワード：実現済み、已然、共通認識、焦点、取り立てる

1. はじめに

中国語には、一般に強調を表すとされる“是……的”構文がある。“是……的”構文は、すでに発生或は実現していることに対し、発生の時間、場所、方式、条件…などを説明する表現である。

“他妹妹是昨天来的”

(彼の妹は昨日やって来たのだ)

相原茂 2005、134

“他是骑自行车来的”

(彼は自転車で来たのだ)

興水優 2009、75

“我是在高中学的汉语。”

(私は高校で中国語を学んだのです。)

興水優 2009、76

以上の文を見れば分かるように、“是……的”構文は経験、認知の角度から、話し手が事柄の内部に入り込み、事柄を構成する具体的な一つの要素に注意のフォーカスを置き、その要素を文のフォーカスにするのである。¹⁾

これらの文は、すでに完了、実現した行為について説明を行うもので、まだ実現してない行為については用いられない。また、語順やイントネーションによって、強調部分も違ってくる。さらに、典型的な完了文“V了”構文との区別も学生にとって非常に難しいようである。

1.1 データ収集に関して

一学期中に約150人の中国語初級学習者を対象に、計3回中国語文法の小テスト（1回につき10問程度）を実施した。内容は主に「間違い訂正問題」、「翻訳問題（日本語→中国語）」、「並べ替え問題」である。

この計3回分の小テストの中から、本稿では、特に“是……的”構文に特化した問題のみのデータを抽出した。問題の詳細は、本論にて誤答例として都度挙げていくこととする。

2. “是……的”構文の意味機能

“是……的”構文の意味機能について、学者によって見解は様々である。朱德熙は“是……的”構文を一種の「判断文」だと考え、“的”を構造助詞だとされている。²⁾ 杉村博文によると、“是……的”構文は一種の「已然の事柄」だと考え、さらに、「確認済みのある事態の発生・実現はコミュニケーション双方の共通認識」だと主張している。³⁾ 小寺春水は「定・不定」の視点から“是……的”構文の目的語について分析している。⁴⁾ 刘月华は“是……的”構文の重点は動作自体にあるのではなく、動作の時間、場所、方法、受け手、仕手など、動作に関係する側面にあることを述べている。⁵⁾

本稿は研究者たちの見解を参考にしながら、初級学習者にとって、“是……的”構文の学習難点について検討してみようと思う。

2.1 “是”の機能

刘月华によると、マーカー“是”の働きはその直後の成分が「表現の焦点」であることを表す。⁶⁾ 张友和によると、“是”は基本的に「話題—説明」の判断標記だとされ、同時に「述語成分を名詞化」、「動態的な事柄を静態的に観察」という二つの役割を果している。⁷⁾

杉村博文が提示した“先了后的”原則に従って、焦点マーカー“是”を用いて、“V了”構

文を“是……的”構文に替える。

他昨天进城了。(彼は昨日、町へ行きました。) + 是……的(昨日を焦点に)

↓

他是昨天进的城。(彼は昨日、町へ行ったのだ。)

このように、“昨天”(昨日)という時間要素をマーカー“是”の後に置くことで、取り立てる焦点となるのである。ただし、焦点マーカーの“是”はよく省略される。

他昨天进的城。(彼は昨日、町へ行ったのだ。)

しかし、学習者にとっては“是”が省略されている構文と“V了”構文がどう違うのかますます分からなくなっているようである。そのため、まずは“的”の役割を説明する必要があると思われる。

2.2 “的”の機能

刘月华は“的”の働きは、述語である動詞の表した動作は既に実現した或は完了したことを表すと述べている。⁸⁾ また、张谊生も“的”を時制助詞と指摘している。⁹⁾

① 我们是坐公共汽车去的。(私たちはバスに乗って行ったのです。)

② 我们是坐公共汽车去。(私たちはバスに乗って行くのです。)

③ 你是哪年毕业的?(何年に卒業したのですか?)

④ 你是哪年毕业?(何年に卒業するのですか?)

相原茂 2005、136

“的”を除いてみると、文の強調される部分と強調の意味は変わらず、時制が変わる。

“的”が付いている①、③は過去形で、“的”が付いていない②、④は未来形になっていることがわかる。

また、张友和は“的”の表す意味は二つがあり、「一つすでに発生した事実について具体的状況を説明すること、もう一つ肯定や断定の語気を表すこと」と主張している。¹⁰⁾

・勘違いを訂正

甲：小王好像是前天看戏的。(王さんは一昨日劇を見たようだ)

乙：不，小王是昨天看戏的。(いいえ、王さんは昨日劇を見たのだ) 张友和(2012) 99

・ 選択、断定

甲：谁是昨天看戏的？（昨日劇を見たのは誰だ？）

乙：小王是昨天看戏的。（昨日劇を見たのは王さんだ）

张友和（2012）99

このように、“的”の働きは時制を表す助詞でもありながら、断定、説明、強調、弁解などの語気も表すことができるとも思われる。即ち、“的”は“了”と同様に完了実現の時制を表す以外にも、話し手の感情というモダリティ要素も強いと言えよう。

3. 誤用分析

多くの教科書では“是……的”構文を「ある行為が発生したこと自体は明らかで、更にその行為の行われた時間、場所、方式等を具体的に強調する」¹¹⁾と説明している。このような説明では、“是……的”構文と“V了”構文の区別は「強調か否か」だということを誤解しかねない。

また、日本語のノダ文も説明と強調の働きを持っているので、“是……的”構文を日本語のノダ文に対応しようとする諸説もあるが、結局、学習者にとっては、“是……的”構文の使い方にはいろいろ不明の点が残ってしまうようである。

次は、学生の誤答例を分析しながら、誤用原因や使用条件などを分析してみようと思う。

3.1 “是……的”構文と“V了”の混同による誤用

中国語では、“了”も“的”も語気助詞の要素が強く、どちらも完了の事柄を表現する時に使われることが多い。“是……的”構文は過去を表し、日本語訳ではしばしば「～は…た/たのだ」と訳される。そのため、学習者は“的”と“了”はほぼ同じような機能を持っていると勘違いしてしまうようである。

また、“了”は名詞や形容詞などの後に付いた場合は、「変化」を示すことが多く、動詞の後に付けば、動作の「完了」を示す。本論は、“是……的”構文を中心に論述するため、「変化」よりも動作の「完了」を示す“了”との違いを見ていくこととする。

まず、以下の誤答例を見て頂きたい。

[日本語訳を参考に間違い訂正]

「この料理はあなたが作ったのですか？」

誤答率48.5%

正解) 这个菜是你做的吗？

誤答例) 这个菜是你做了了吗？

这个菜你做了吗？

完了を表す“了”は、実現済みの事柄を新情報として初めて相手に述べようとするニュアンスがあり¹²⁾、相手に自分がこの料理を作ったという新情報を伝える時に“我做了这个菜”（私はこの料理を作りました）という“V了”構文を用いるのが一般的である。しかし、「この料理はあなたが作ったのですか？」の文の背後には「誰かが料理が作った」という共通認識が既に存在しているので、「作った」動作は旧情報になるわけである。従って、動作主を尋ねる時に、「ある動作が完了した」という新情報を伝える“V了”構文は使いにくくなる。

一方、“是……的”構文は、実現済みの事柄について話し手と聞き手に一定の共通認識があるという前提があって、この事柄が話題になっている場面に用いられる。作ったという動作の主語は誰なのかについて尋ねたり、説明したり、強調したりする場合は“了”ではなく、“的”を用いるのが自然である。

[翻訳問題(日→中)]

「あなたは飛行機で来ましたか？」

誤答率15%

正解) 你是坐飞机来的吗？ / 你是不是坐飞机来的？

誤答例) 你是不是坐飞机来了吗？

你坐不坐飞机来？

你是坐飞机来吗？

你是不是坐飞机来？

「あなたは飛行機で来ましたか？」の文の動作は「来る」であり、文脈によって「来る」という動作が既に発生したのは話し手と聞き手にとっては既知情報である。その「来る」という動作の手段について尋ねる時に“是……的”構文を用いるのである。¹³⁾

以上のように、“是……的”構文の問題には、必ずと言っていいほど、“了”を用いて間違える誤答が見られた。“是……的”構文の小テストを通して、初級学習者の中では「過去の事＝“了”を付ける」という決まりが出来てしまっているようである。

初級中国語では、“是……的”構文を習う以前に、「…た」という“了”を先に習う。その影響で初級学習者は、「いつ（時間）」、「どこ（場所）」、「どのように（手段・方法）」、「誰（人物）」という4つの重点的特徴があろうとも「動作した」という文には安易に“了”を付けてしまうようである。それは、学習者が完了の動作について述べる時、“了”と“的”の違いをまだはっきりと把握していないからであるように思われる。

そもそも完了したことについて述べる時、“了”と“的”両方使えるが、“了”は一つの出来事を述べるだけで、“的”はその出来事の何かの要素を強調しながら説明をする傾向が見られる。¹⁴⁾

他听了这张 CD。(彼はこの CD を聞きました。)

他听的这张 CD。(彼はこの CD を聞いたのです。)

郭颖侠 2003

このように、“是……的”構文と“了”の違いは、重点を置いて伝えたい部分が違うと言えよう。よって、両者を単なるお互い同じ意味の言い換えた文と勘違いしてはならないのである。

例えば、初級学習者に「彼は昨日来ました。」という文を中国語訳させると、ほとんどが“他昨天来了。”と翻訳した。なぜなら、彼は昨日「来た」、つまり、主語は「動作した」=“動詞+了”という語順に単純に従っているからである。

動作の「完了」を示す“了”は、当然「動作が完了した」ことに重点が置かれている。そのため、「いつ」(この文で言うところの「昨日」)という「時間」には特に焦点は当たっていない。つまり、“他昨天来了”だと、仮に「昨日」は無くても、とりあえず「彼は来た」ことが伝われば“了”の役割は果たせていることになる。

「いつ(時間)」、この文で言うところの「昨日」に焦点を当てて、「来た」と言いたい場合、“他昨天来了”では動作の完了を伝えることには成功しているが、「昨日」という部分が「強調しながら説明¹⁵⁾」出来ていないことになる。なぜなら、「昨日」に焦点を当てて「来た」という場合、まずその前段階で「彼はいつ来たのか」と尋ねられていることが基本前提となっているからである。

つまり、“是……的”構文は、動作の「完了」を示す“了”のように、特に脈絡が無くとも使える文ではなく、会話の中で使う文ということになる。さらに、「彼はいつ来たのか」に対して「彼は昨日来た」という場合、質問者と回答者の間で「彼が来た」ということが既に共通の認識になっていることもわかる。お互いに「彼が来た」ことを前提に、それを共通認識として、「いつ来たのか」に焦点を当てているのである。お互いに「来た」、つまり「動作した」ことはわかっているので、「動作の完了」に焦点を当てる“了”を使うのではなく、あくまでも「いつ動作したのか」に焦点を当てた“是……的”構文を使うのである。

“他是什么时候来的？”(彼はいつ来たのですか?)

“他是昨天来的。”(彼は昨日来たのです。)

よって、初級学習者には、“是……的”構文は、「動作したことが既に共通認識として前提にある会話文で使う」ことをまずしっかりと練習させることが重要であろう。

3.2 動作部分の取り立てによる誤用

初級の段階では、“是……的”構文の役割は、主語が主に4つの事に重点を置いて述べる、と習う。簡潔に言うと、「いつ（時間）」、「どこ（場所）」、「どのように（手段・方法）」、「誰（人物）」が動作したのかに焦点を当てて相手に伝えるということに、“是……的”構文の特徴がある。しかし、中国語初級学習者がその肝心の「動作に関係する側面」を焦点マーカー“是……的”に入れるのではなく、「動作した」そのものを入れるという取り立て間違いをよくする。

[翻訳問題（日→中）]

「私は本を買っている時彼女に知り合ったのだ。」

誤答率88.5%

正解) 我（是在）买书的时候，认识她的。

誤答例) 我买书的时候，是认识她的。

学習者が上記のように間違えた原因は、この“是……的”構文は時間（本を買っている時）を取り立てるはずだったが、動作（知り合う）部分を取り立ててしまったことにある。

しかし、“是……的”によって取り立てるものは、動作・行為そのものではなく、その動作・行為の成立に関わる様々な側面である。¹⁶⁾

[日本語訳を参考に間違い訂正]

「この料理はあなたが作ったのですか？」

誤答率48.5%

正解) 这个菜是你做的吗？

誤答例) 这个菜你是做的吗？

この例も学習者は動作の主語ではなく、動作そのものを取り立ててしまっている。

しかし、日本語の原文を見ないと、“这个菜你是做的吗？”という文は必ずしも非文だとは言えないのである。この文が言えるのは、この料理はあなたが買ったか、もらったか、作ったかという選択肢から一つを選ぶ場合であり、その時、イントネーションは“做”（作る）に置かれる。問題の日本語原文「この料理はあなたが作ったのですか？」の聞きたい情報は作ったか否かではなく、作った人はあなたかほかの人かにあるのである。“是……的”構文のルールでは、“是”の後は焦点部分になるので、動作主“你”と動作“做”をセットで“是……的”の中に入れるのが正しい語順となる。

[翻訳問題 (日→中)]

「兄は今朝7時に行ったのです。」

誤答率40.8%

正解) 我哥哥是今天早上七点去的。/ 我哥哥今天是早上七点去的。

誤答例) 今天早上七点我哥哥是去的。

この誤答例は、どの場合においても言えない。それは動作“去”というのが焦点になりにくいからである。では、なぜ動作が焦点になれる場合もあれば、焦点になれない場合もあるのであろう。

実は、述語は普通“是……的”構文の焦点にならない。というのは、“是……的”構文は、ある動作や変化が発生したことを承知した上での発話なので、述語の部分は当然既知情報である。しかし、何かが発生したことは分かるが、いったい何が発生したか、どうやって発生したかということを聞く場合、述語動詞を焦点にする“是……的”構文が使われるのである。¹⁷⁾

甲：<車が凹んでいるところを見て> “是撞的吗？”（ぶつかったのですか？）

乙：嗯，是撞的。（ええ、ぶつかったのです。）

<玄関に置いてあるサラダ油について家族に説明している>

“是分的，不是买的。”（もらったんです。買ったのではない）

郭颖侠 2003

このような前に脈絡がある場合に、対比、強調、説明的な答え方以外は、述語動詞だけを強調することはできない。

“他是来的” × （？彼は来たのです。）

“他是去的” × （？彼は行ったのです。）

郭颖侠 2003

「兄は今朝7時に行ったのです。」と言う文は「行く」という動作には対比や強調などのニュアンスが付きにくいので、述語が焦点になれないのである。

3.3 “是”の語順間違いによる誤用

初級学習者において、“是……的”構文の使うタイミング（脈絡に沿って使う）を理解したとしても、まだ課題は残る。それは“是”の語順である。

先述したように、“是……的”は、焦点を当てたいところ、取り立てたいところを“是……的”の中に入れて作る。

先ほどの誤答例をもう一度見て頂きたい。

[日本語訳を参考に間違い訂正]

「兄は今朝7時に行ったのです。」

誤答率40.8%

正解) 我哥哥是今天早上七点去的。 / 我哥哥今天是早上七点去的。

誤答例) 我哥哥是去今天早上七点的。

我哥哥去是今天早上七点的。

「兄は今朝7時に行ったのです。」の文の焦点は「今朝7時」という時間要素である。従って、時間と動作のセット（今天早上七点+去）を“是……的”の中に入れねばならない。しかし、学習者は時間の“今天早上七点”だけを入れたり、“去今天早上七点”のように時間と動作の順番を逆にしたりするような間違いが多く見られた。

[翻訳問題（日→中）]

「私はバスではなく、自転車で来ました。」

誤答率55.7%

正解) 我不是坐公共汽车来的，是骑自行车来的。

誤答例) 我不是坐公共汽车的，是骑自行车的。

我不是坐公共汽车来，是坐自行车来的。

我不坐公共汽车来，骑自行车来了。

我不是坐公共汽车，骑自行车来的。

我不是来坐公共汽车的，是来自行车的。

没坐公共汽车，骑自行车来的。

我坐公共汽车没来，坐自行车来了。

この問題の誤答例は実に様々である。

まず、日本語の影響で、“我不是坐公共汽车，骑自行车来的。”のような誤答が頻出した。否定の“不是……的”が正しく書いても、肯定の“是”を抜いてしまっている。また、この文が来る動作ではなく、来る手段の“坐公共汽车”（バスで）を強調するというのは理解できたが、「手段+動作」「坐公共汽车去」のセットを“是……的”で強調するのを忘れてしまっている。

“是……的”構文は、主に述語の動作を具体的に説明する成分が焦点になり、その焦点になる部分を“是”と“的”の間に挟んで述べることになっているが、焦点部分だけではなく、動

作も一緒に中にいれるのは忘れてはいけない。

3.4 目的語の位置の誤り

“是……的”構文は一般的に“的”で終わる。¹⁸⁾しかし、述語動詞の目的語を“的”の前に置く場合（V 的 0）もあれば、後ろに置く場合（VO 的）もある。

A 小王是昨天去的北京。(王さんは昨日北京へ行きました。)

B 小王是昨天去北京的。(王さんは昨日北京へ行きました。)

张黎、佐藤晴彦は A と B の違いを「新・旧情報」という視点から分析している。

共通点：ともに“是”の後の“昨天”が新情報、つまり焦点である。

相違点：A の“的”の後の“北京”は旧情報。B の“的”の前の“北京”は新情報も旧情報もありうる。また、A は王さんがもう北京にいない可能性もあるということになるが、B は王さんが今も北京に滞在している、という違いもある。¹⁹⁾

小寺は「個別動作」と「経常動作」の視点から、“是……的”構文は一般的に「個別動作」の場合に用いられると指摘し、動詞と目的語を中心に分析し、次のような結論を出した。

（V 的 0）タイプは常に個別的動作を表すのに対し、（VO 的）は動作、文成分の意味的性質によって個別動作か経常動作かが決定される。²⁰⁾

杉村博文もアスペクト性の違いにより生じていると述べている。²¹⁾

C 你是怎么谈的恋爱? (あなたはどのように恋をしていたの?)

過去・個別の恋愛を言う。

D 你是怎么谈恋爱的? (あなたはどのように恋をするの?)

恒常・一般の恋愛をしている。

実は、特定の文脈がない場合、“去北京”（北京へ行く）も、“恋爱”（恋をする）も、一種の個別的な動作・経験だとされる傾向が強いので、（V 的 0）タイプを用いるほうが自然に感じられるのである。

初級段階では、多くの教科書は（V 的 0）タイプも（VO 的）タイプも両方使える、ただ、目的語が代名詞の時は（VO 的）タイプを採用すると学習者に教えているようであるが、それでも目的語の位置による間違いは意外に少なくない。

[翻訳問題（日→中）]

「私は四川レストランで北京ダックを食べたのだ。」

誤答率69.2%

正解) 我是在四川饭馆儿吃的北京烤鸭。

誤答例) 我在四川饭馆儿吃北京烤鸭的。

我是在四川饭馆儿吃北京烤鸭。

我在四川饭馆儿吃了北京烤鸭。

我在四川饭馆儿吃北京烤鸭了。

学習者は、“是……的”構文は“的”で終わるのが鉄則であるように思い込んでおり、目的語を“的”の外へ出すには抵抗があるようである。

牛秀兰は、動詞の音節数から目的語の位置の説明を試みている。即ち、“是……的”構文に現れる動詞が一音節ならば、目的語は“的”の後に用いられ、動詞が二音節ならば、“的”の前に用いられる場合が多いと見なされている。²²⁾

この説について、史有为は、適用度が比較的高いが、すべての場合には適用されるものではないと述べている。²³⁾

実は、動詞の音節数だけではなく、目的語の音節数が多い場合、“的”の外へ出るほうがバランスいいと思われる。よって、“是……的”構文の目的語が“的”の外へ出ることは少ない。

我是11点吃的饭。 / 吃饭的。 (私は11時ご飯を食べたのだ。)

我是早上洗的澡。 / 洗澡的。 (私は朝、シャワを浴びたのだ。)

我是在沙发上睡的觉。 / 睡觉的。 (私はソファで寝たのだ。)

以上は初級でも習う離合詞を使った文であるが、離合詞はそもそも一種の「動詞＋目的語」構造なので、“是……的”構文になると、ニュアンスは少し違うようになるが、基本的に、動詞と目的語は“的”で離れても、結合したままでも構わない。²⁴⁾

4. “是……的”構文説明の工夫

ここまで、初級学習者が“是……的”構文において陥りやすいミスについて解析してきた。結果、まず、“是……的”構文は、“了”とは違い、単に動作の完了が言いたいのではない、ということを確認させる必要があることがわかった。

初級学習者にとっては、何の脈絡もなく、単文で“是……的”構文の説明を受けても、完

4.2 学習者自ら使う

“是……的”構文を習ったとしても、正しく使えるような自信がなく、学習者はなかなか自ら使おうとしない。しかし、使いこなさせるため、普段からの練習が不可欠である。よって、“是……的”構文を使えるような会話をさせたり、作文をさせたりする必要があると思う。

例えば、一つのテーマ（旅行、買い物、映画、友人などの紹介）を設定して、学習者同士で完了した動作に関わる諸要素をお互いに尋ね合う練習を行う。

- ・旅行に関するやり取り（いつ行ったか、どうやって行ったか、誰と一緒にいったかなど）
- ・友達の紹介をするやり取り（いつ知り合ったか、どうやって知り合ったかなど）
- ・印象に残る中国映画の紹介やり取り（いつ見たか、どこで見たか、なにが面白いかなど）
- ・買った物についてのやり取り（いつ買ったか、どこで買ったか、支払方法など）

5. 終わりに

本稿は小テストのデータに基づいて、“是……的”構文の誤用とその誤用を起こす様々な原因について分析、解析してきた。

そして、事前に誤用を避けるために、より一層説明を工夫したり、普段の練習を行ったり、小テストの様式を改善したり、さらに“是……的”構文を活かせる脈絡ある会話を作成する必要があることが分かった。

さらに、今後の課題としては、上記してきたように、説明・練習改善後に小テストを行い、学習者の習得状況を確認・把握し、改めて誤用対策を立て、よりよい説明方法、練習方法を見つけていくこととする。

注

- 1) 張友和 (2012) 92頁
- 2) 朱德熙 (1978)
- 3) 杉村博文 (1982)
- 4) 小寺春水 (1994) 253頁
- 5) 劉月華 (2001) 763頁
- 6) 劉月華 (2001) 763頁
- 7) 張友和 (2012) 94頁
- 8) 劉月華 (2001) 763頁

- 9) 张谊生 (2000) 230頁
- 10) 興水優、島田亜美 (2009) 377頁
- 11) 相原茂他 (2005) 134頁
- 12) 杉村博文 (2017) 230頁
- 13) 郭颖侠 (2003) 218頁
- 14) 郭颖侠 (2003) 218頁
- 15) 郭颖侠 (2003) 218頁
- 16) 相原茂他 (2005) 135頁
- 17) 郭颖侠 (2003) 224頁
- 18) 郭颖侠 (2003) 220頁
- 19) 张黎・佐藤晴彦 (1999) 88-89頁
- 20) 小寺春水 (1994) 30頁
- 21) 杉村博文 (1995) 51頁
- 22) 牛秀兰 (1991) 175-178頁
- 23) 马学良 史有为 (1982) 60頁
- 24) 谢平 (2018) 286頁

参考文献

- 興水優、島田亜美 (2009) 『中国語わかる文法』、大修館書店
- 张友和 (2012) 《“是”字结构的句法语义研究》、北京大学出版社
- 朱德熙 (1978) 《“的”字结构和判断句》中国语文第1期、第2期
- 朱德熙 (1980) 《现代汉语语法研究》、商務印書館
- 郭颖侠 (2007) 現代社会文化研究NO. 27
- 张黎・佐藤晴彦 (1999) 『中国語表現文法 28のポイント』、東方書店
- 小寺春水 (1994) 「“是……的”構文の目的語の位置について」人文学報、東京都立大学
- 小寺春水 (1999) 「“是……的”構文の“是”の意味機能」漢学研究、第37号、日本大学中国語文学会
- 刘月华 (1991) 『現代实用中国語文法総覧』くろしお出版
- 牛秀兰 (1991) 《关于“是……的”结构句的宾语位置问题》《世界汉语教学》第三期
- 木村英樹 (2002) 「“的”の機能拡張—事物限定から動作限定へ」『現代中国語研究』2002第4期、朋友書店
- 杉村博文 (1994) 『中国語文法教室』、大修館書店

(ちょう・らん 英語国際学部講師)

(かごたに・かおり 英語国際学部講師)